

來賓挨撈

皇太子殿下のおことば

(2013年10月18日 開会式)

国内外から多くの参加者を迎え、GEA(地球環境行動会議)国際会議2013が開催されることを誠に喜ばしく思います。

地球温暖化や生物多様性の減少は今や現実の問題として進行しています。新興国を中心に世界経済が急速に成長し、今後更に発展していくと考えられる中で、経済発展に伴う環境破壊を防ぎ、持続可能な開発を達成することが、世界的な課題となっています。

このような中で、「リオ+20からの出発：持続可能な未来に向かって」をテーマとした本会議は、持続可能な開発に向けて世界の叢智を結集する貴重な機会です。1992年のリオ・サミットから20年を経た昨年6月、再びリオデジャネイロにおいて「国連持続可能な開発会議」が開催され、世界188か国により、「我々が望む未来」という文書が合意されました。今、私たち一人一人が、私たちの望む持続可能な未来に向けてどのように行動するかが、問われています。

この会議では、持続可能な開発に関連する科学技術、都市づくり、エネルギー、経済、金融など様々な分野の第一人者を迎え、議論が行われると伺っております。

この会議で、私たちと、私たちの子孫、そして全ての生物が、いつまでも地球環境の恵みを享受することができるような未来に向け、活発な議論が行われ、世界に向けて発信されることを期待しています。そして、持続可能な社会の構築に向け、具体的な取組が更に進むことを願い、私の挨拶といたします。

安倍晋三 内閣総理大臣

〔加藤勝信 内閣官房副長官 代読〕

(2013年10月18日 開会式)

本日は安倍総理がこの会議に出席させていただく予定のところ、参議院の本会議、代表質問ということで、失礼をさせていただきます。代わりに代読をさせていただきます。

皇太子、同妃両殿下のご臨席を賜り、地球環境行動会議が開催されるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

この地球環境行動会議は、1992年にリオデジャネイロで開催された地球サミットに向け、当時の竹下総理が東京で「地球環境賢人会議」を開催されたことに端を発するものです。その20年後の昨年、再びリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議」(リオ+ (プラス) 20 (トゥエンティ)) が開催され、その成果を受けて今回の地球環境行動会議がここ東京で開催されることは、誠に意義深いことです。

先週、約60名の閣僚を含む約140か国の代表が熊本・水俣に集まり、「水銀に関する水俣条約」への署名が行われました。水俣病に代表されるような激甚な産業公害を教訓として、水銀汚染の防止のため各国が合意したのです。このような取組を一步一步積み重ねて、地球規模で持続可能な開発を進めていく必要があります。

持続可能な未来に対する重大な挑戦として、地球温暖化の問題があります。世界の平均気温は過去130年間で0.85度上昇し、世界各地で異常気象が頻発しています。地球温暖化は「今ここにある危機」であり、直ちに地球規模で行動することが必要です。

私は、2007年に開かれたハイリゲンダムサミットで、世界全体の温室効果ガス排出量を2050年までに半減するという長期目標を呼びかけました。世界経済の持続可能な成長の鍵の一つは、「技術」です。この目標に向けて、我が国は「技術」で世界をリードしていきます。最先端の技術で国内の排出抑制を最大限進めて行くことはもちろんですが、さらに、我が国が誇る技術を世界に展開し、低炭素社会を世界に広げていきます。

途上国それぞれの特性を踏まえ、省エネ技術、再生可能エネルギー技術や低炭素なインフラ技術を広げるため、我が国は技術協力や技術移転を積極的に進めます。例えば、我が国が資金や低炭素技術と、ノウハウを途上国に提供して温室効果ガスを削減する「二国間クレジット」の仕組みを活用していきます。すでに、インドネシア、ベトナムなど8か国と「二国間クレジット」の活用で合意しています。この仕組みを通じて、我が国の民間企業と政府が一体となって途上国への低炭素技術の移転を加速化します。

我々の暮らし、経済は、豊かな環境があつて初めて成り立つものです。豊かな環境なくして経済成長はありません。経済成長と環境保全を両立させるだけでなく、環境技術、環境ビジネスが経済成長の牽引力となる未来を、共に築いていきたいと思っております。こうした持続可能な未来の実現に向けて、今回の会議で実りある議論が行われることを期待し、私からのご挨拶とさせていただきます。